

esplanade

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館

esplanade [HKT1114]
JULY 2025 | NO.220





所蔵品紹介

旗亭涼宵

晩夏の涼しい風が吹き抜ける料亭の座敷にたたずむ女性。絹の着物を身にまとい、団扇を手にして左に視線を投げています。先ほどまで客人がいたのでしょうか、卓上にはブドウなどが入った鉢と二つの碗が置いてあります。庭には青もみじが茂り、緑あふれる景色が描かれます。すらりと立つ女性は市丸という名で、浅草の料亭で働いていた芸者ですが、歌手、いわゆる鶯芸者としてデビューし、一世を風靡しました。

市丸の姿を描いており、彼女は彼女にとって馴染み深いモデルでした。本作は昭和8年の第14回帝國美術院展覧会に出品され、特選を受賞しています。師の清方は、写実に徹したことで、小早川と同門の伊東深水が描く芸者とは異なる重厚感が出ていると評しました。裾に緻密な樓閣山水の文様が配された黒地の着物に扇文の帯が映え、帯留めを斜めに締めた粋な姿の市丸の、きりっとした眉や目は意思の強さを感じさせます。

暑い季節に、凛とした涼しげな姿を一目見にいらしてください。

※本作品は近現代美術室A「懐かしの風景」ニッポンの夏（8月31日まで）に展示されています。

「塔影」昭和8年11月号

学芸員（近現代美術係）
花田珠可子

esplanade

[エスプラナード]

JULY 2025 | NO.220

contents

- 03 所蔵品紹介
- 04 新しいコレクションハイライト！
- 05 第3回 福岡アートアワード受賞作をご紹介します。
- 06 Enjoy! 夜間開館
- 08 夏休みこども美術館2025
みる見る きこえる 音楽会
- 10 美術館スケジュール（7～9月）

みなさんは、心が動いた瞬間をどのように覚えて
いますか？自分の記憶にしっかり刻み込む人、
日記に記す人、その方法は様々です。最近では
スマホで写真を撮って振り返るという人も多い
のではないのでしょうか。

当館では、2025年6月から近現代美術展示室
において、所蔵品の撮影がOKになりました。
お気に入りの作品が見つかりましたら写真に
収め、時々見返して、心が動いた瞬間を思い出
してみてください。

小早川清 KOBAYAKAWA Kiyoshi
(1899-1948)
昭和8年(1933)
絹本着色・掛幅
縦 219.2× 横 168.3cm

第3回 福岡アートアワード受賞作をご紹介します。

福岡アートアワードとは、福岡市内で活動をおこない、今後の飛躍が期待できるアーティスト(美術作家)を対象に、作品の買い上げをもって贈賞する、という福岡市美術館の事業です。贈賞によりアーティストを支援し、買い上げ作品は福岡市美術館の所蔵品として展示活用します。令和4年度よりこの事業がはじまり、

昨年度で第3回目を迎えました。第3回目では福岡県を拠点として活動する4組のアーティストが受賞しました。そして今年度も第4回福岡アートアワードを開催いたします。自薦他薦問わずご応募いただけます。たくさんのご応募お待ちしております。

——— 学芸員(近現代美術係) 渡抜由季

第4回 福岡アートアワードアーティスト募集！ 応募方法はこちら > 右記QRコードよりご確認ください。



第3回 福岡アートアワード受賞作品

市長賞



牛島 智子《家婦》2020年

カタツムリの殻のような「動く家」に頭を入れて掃除する女性のオブジェ、そして作者の祖父母の代から使われてきた古布をはぎ合わせた幕絵が後部の壁面を飾ります。立体と幕絵の2種で構成される本作は、家事を思わせる断片や制作手法を用いており、育児、家事、作家活動等の様々な役割を体験した作家の人生に根差しています。

優秀賞



オーギカナエ

《空に登って集まって、めじろ眼鏡の森、白い花～植物は考え歩き行動する～》2024年

丸みのある植物や水滴などが、明るい色で形どられ、壁に配されています。軽く見えるのは八女の手漉き和紙を用いているからでしょうか。本作は作家が2023年の九州北部豪雨で被災した経験に基づいています。作家は土砂で埋まった自宅や周辺部等の変化を観察するうち、困難な状況でも自然が巡り育まれる様に一筋の希望を感じ、表現しようとした。

優秀賞



興梠 優護《／72》2018(加筆2020)年

炎のように揺らめき重なりあう色彩の中に、等身大よりも大きな女性や横たわる女性、腰掛ける女性、両手を広げる男性などが幻影のように浮かび上がっています。本作は傾きやずれを連想させる『/』シリーズの一つで、光の反射や屈折、フレアといった要素を取り入れ、移り変わる時間や感覚の変化を視覚的に描きだそうとしています。

優秀賞



SECOND PLANET

《カストロフが訪れなかった場所》2024年

本作は、1945年8月9日にテニアン島を出発し、原爆投下目標地である小倉に向かった爆撃機が、第二候補の長崎に予定変更するまでのタイムラインを記したスライドと、現場の機材および会場内で発生する音、オンライン・オフラインで集められた音を加工した音源によって構成されます。起こりえたにも関わらず、実際には起こらなかった無数の場所と歴史を多角的に考察しようと試みています。



展示室Cの様子

NEW

展覧会情報

コレクションハイライト

- 会期: 6月12日(木)～通年展示
- 会場: 2階 近現代美術室A、C

そもそも、コレクションハイライトって？

2019年のリニューアル以来開催している近現代美術のコレクション展「コレクションハイライト」。A・B・Cの3つの部屋に分かれた近現代美術室のうち、AとCが会場です。通常は年に1回展示替えを行い、6割程度の作品ががらりと入れ替わります。今回の展示替えでどんなところが変わるのか、ご紹介します！

展示室A「作品と語ろう」

この展示室の特徴を一言で表すなら、「全然違う、でもちょっと似てる」作品たち。展示室に並んだ作品同士は、響き合う色や形があったり、テーマが対照的だったりしています。この「語り合い」を自由な目線で楽しむことをねらいに、展示会場を構成しています。空間演出にもご注目ください。

展示室C「4つの視点」

この展示室では、エリアごとに4つのテーマを設け、作品を展示しています。「1. 広がる絵画の地平」「2. 移動、ひらめき」「3. 仮想の風景を眺める」「4. 想像の翼」



展示室Aの出品作、飯山由貴《美術館で行われた、いくつかの会話：福岡市美術館》より。展示室での語り合いを主題とした映像の中には、実際にコレクションハイライトで見ることができる作品が登場する。

です。好きなテーマをたどりながら、20世紀以降の美術の展開が感じられる作品や、ご自身の今の気分にあった作品との出会いを楽しみたいだけだと嬉しいですね。

見どころ番外編撮影OKに！

リニューアル以降、多くのお客様から記念に展示室を撮影したい、というご意見をいただいていたが、今回の展示替え(6月12日)から、近現代美術のすべての展示室でお客様による作品の撮影が可能になりました。お気に入りの作品を撮影して、お家に帰った後も余韻を楽しむことも可能になります。ただし、撮影の際は、どうぞルールを守ってくださいね。

— 学芸員(近現代美術係) 忠あゆみ

新しい！

コレクションハイライト

撮影もOKに！

アイデア②

心も体も満ちされる、 ランナーズ美術鑑賞

① 17:30 ~ ソフトクリームで エネルギーチャージ!

一日仕事をがんばった体に、甘いもので元気を取り戻します。1階のカフェ「アクアム」では、インカ・ショニバレCBEの《ウィンド・スカルプチャー(SG)II》をモチーフにしたソフトクリーム「Wind大濠」(770円・税込)を楽しめます。チョコレートもソフトクリームも本格派のおいしさよし、今日はなんの作品を鑑賞しようかな。



② 18:15 ~ 好きな作品をチョイスして鑑賞

3年にわたって加筆が行われてきた田中千智《生きている壁画》を、すみずみまで眺めます。昨年、一昨年からどんどん作品が変化してきたことに驚きます。もう一つのお気に入りの展示室が、1階の「東光院仏教美術室」。たまにここで静かに自分を見つめ直します。



松永耳庵が、夏季に催したお茶会で使った道具を見ることができます。仰木政斎がお茶会の様子を事細かに記した『雲中庵茶会記』から再現される展覧会です。



青井戸茶碗 銘「瀬尾」

松永耳庵 夏の茶事
開催中～8月17日(日)

会場：1階 松永記念館室

紹介してくれた人/

永山司彩さん

ライブに行くのが趣味の、アクティブタイプ。カワイイものに目がなく、福岡市美術館で一番好きな所蔵作品は、草間彌生《南瓜》。



紹介してくれた人/
島由貴さん

趣味は大好きな建築を見るために旅をすること。一番好きなのは、当館を設計した前川國男。

こんなふうに
楽しんでみてはいかが?

Enjoy! 夜間開館

福岡市美術館の夏のお楽しやってきました。通常は午後5～10月の金・土曜日は午後8時館に勤務する広報運営が楽しむアイデアを教えたらんのおすすめメニューもご

み、夜間開館のシーズンが時30分の閉館時間が、7時まで延長されます。今回は当ループの2人に、夜間開館をいまして。館内のカフェ・レスト紹介します。

① 19:30 ~ 大濠公園をランニング しながら帰宅

日が暮れ、やっと暑さが和らいできたので、大濠公園をランして帰宅します。気持ちのいい公園の隣に美術館があるのは、ステキですね。心もからだもしっかりこちよさに包まれて、明日への英気を養うことができました。

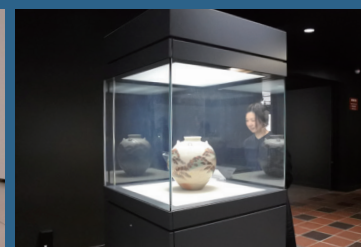


ちょっとおめかしして 大人の美術鑑賞

アイデア①

① 17:30 ~ 作品を鑑賞する

仕事帰りに寄れるのが、夜間開館のいいところ。古美術も、近現代美術も、じっくり作品と対峙できます。遅い時間の鑑賞は、ふだんと違った体験になるかも!?



「懐かしの風景～ニッポンの夏～」展では、うちわや花火など、ちょっと懐かしさを感じる日本の風景を描いた作品を見ることが出来ます。なんだか暑さが和らぐみたい…。

懐かしの風景～ニッポンの夏～
開催中～8月31日(日)
会場：2階 近現代美術室A

伊東深水《現代美人集 第二輯 蜩》1934年



① 18:30 ~ 集中して鑑賞した後は、 おいしいお酒に舌鼓

2階にあるレストラン「ブルヌス」では、窓から広がる大濠公園のパノラマを眺めながら、おいしい食事やお酒を楽しむことができます。私のお気に入りには、「生ビール」(990円・税込)と「チキンバスケット」(990円・税込)。ホテルクオリティのおいしいメニューを、ぜひ楽しんで!ビールに舌鼓を打ちながら、さっき見た作品を思い返します。



ワイン派のあなたには、ワイン1杯とアペタイザーを楽しめる「ワインセット」(2,200円・税込)をどうぞ。



① 19:30 ~ 前川國男設計を 感じながら夕日を望む



意外な穴場スポットが、レストランの隣のバルコニーから眺める大濠公園の風景です。ちょうど日が沈む時間に合えば、美しい夕焼けを見ることができます。大好きな前川建築に包まれながら、夕日に照らされたインカ・ショニバレCBEの《ウィンド・スカルプチャー(SG)II》を眺める。至福のひとつです。

夏休みこども 美術館 2025 「みる見る きこえる 音楽会」

●会期：6月25日(水)～8月24日(日) ●会場：1階 古美術企画展示室

作品から、
どんな音楽が
聞こえる？

うたげ 宴からきこえる音や音楽

さまざまな動物たちが宴をひらいています。中央のテーブルの上には魚・肉・果物・骨などがならび、動物にとってこちそうのようです。猿や犬、猫などの動物たちは食事をしたり、ドアから出ていこうとしたりと一つの部屋の中でいろいろなことが起こっています。それらの様子を見ていくうちに会話やにぎやかな宴会の音まで聞こえてきそうです。そして、左上の扉近くでは、猫とネズミが楽器を演奏しています。猫とネズミは宴でどのような合奏をしているのでしょうか。



板谷 房《動物のための宴》1969年

しらべ 奥深いテーマの調

屏風仕立ての作品は、余白を広く取った画面に大小の不思議な形の紙が貼られています。牛がモチーフとなった大小の紙は、黄色に墨色が重ねられ、無数の模様が浮かび上がっています。題名の黄鐘調^{おおしきしょう}というのは、雅楽の調の一つです。作者は、雅楽の調に色や男女の声をイメージし、女性と男性、東洋と西洋などの「調和」を表現したといえます。会場で作品を見る皆さんのなかで本作の色と形はどのような調和の響きを生むのでしょうか。



井上三綱《黄鐘調》1965年

いにしえから伝わる舞

口を大きく開けた面をつけ、赤い装束を来た人物が舞台の上で舞っています。これは、雅楽の踊りの一種である舞楽^{まがく}「羅陵王^{らりょうおう}（蘭陵王^{らんりょうおう}）」を描いたものです。体をひねり、足を交差した舞人の姿勢や足元にはためく布、強弱のついた線の表現に注目して見ると舞の躍動感が伝わってくるようです。実際の舞台では、「羅陵王」は楽器の旋律に合わせて舞います。どんな旋律に合わせてどのように舞うのか想像がふくらみます。



《舞楽図》江戸時代

お殿様もうっとり!?

ちぶくろ乳袋と呼ばれるお椀のような形が両端につき、中心の軸はくりぬかれて中を覗くと向こうが見えるようになっています。外側には鮑^{あわび}、兎貝^{かふとかい}、蛤^{はまぐり}、榮螺^{さざえ}と貝の模様が漆と金で表現されています。この作品は、福岡藩主黒田家に伝わった大鼓^{おおか}という楽器の胴^{どう}です。大鼓は能や歌舞伎で演奏されます。江戸時代には福岡城内で能の催しがたびたび行われました。黒田家のお殿様も聴いていたかもしれない音色をぜひ聴いてみたいですね。



《貝尽文蒔絵太鼓胴》江戸時代

今

年の夏休みこども美術館のテーマは「音楽」です。当館の古美術と近現代美術の所蔵品からテーマに沿って選んだ作品を幅広く紹介します。美術館で音楽会!?!と思う方もいるかもしれません。今回の展示では作品をじっくり見て、作品から聞こえてくる音楽を想像して楽しんでもらいたいと思います。

展示は3つの章に分かれています。1つ目の章の「奏でる楽器」では、音楽を演奏する楽器に注目します。当館が所蔵する福岡藩主黒田家のコレクションから、工芸作品の法螺貝や太鼓の胴、琵琶などを展示します。他の作品の中に登場する「楽器」と合わせて「どんな音色が聞こえるかな?」と想像を楽しんでみてください。

2つ目の章は、「舞・ダンス」です。音やリズムを身体で表現したとも言える舞

やダンス。作品中の人たちを見ると、ポーズも衣装もさまざまです。また、色や線で「舞・ダンス」のもつダイナミックな動きを表現した作品もあります。作品の中で踊る人物やモチーフを見ながら、背景に流れる音楽を想像すると、あなたの体も動きだすかもしれません。

3つ目の章は、「音楽の色・形」です。目に見えない音楽を色や形で抽象的に表現した作品を展示します。作品は、リズムやハーモニーなどの音楽的要素を配色や図形で表現したものや、雅楽の調をコンセプトにしたものなど、さまざまです。みなさんが作品から受ける印象とそこから聞こえる音楽はどのようなものなのでしょうか。

今年の夏は、美術館の展示室で作品から聞こえてくる音楽に耳を傾け、「みる見る きこえる 音楽会」を楽しみませんか?

「富坂綾子(教育普及専門員)」



7月	8月	9月
1 火 2 水 3 木 4 金 5 土 6 日 7 月 8 火 9 水 10 木 11 金 12 土 13 日 14 月 15 火 16 水 17 木 18 金 19 土 20 日 21 月 22 火 23 水 24 木 25 金 26 土 27 日 28 月 29 火 30 水 31 木	1 金 2 土 3 日 4 月 5 火 6 水 7 木 8 金 9 土 10 日 11 月 12 火 13 水 14 木 15 金 16 土 17 日 18 月 19 火 20 水 21 木 22 金 23 土 24 日 25 月 26 火 27 水 28 木 29 金 30 土 31 日	1 月 2 火 3 水 4 木 5 金 6 土 7 日 8 月 9 火 10 水 11 木 12 金 13 土 14 日 15 月 16 火 17 水 18 木 19 金 20 土 21 日 22 月 23 火 24 水 25 木 26 金 27 土 28 日 29 月 30 火
6月24日(火)～8月31日(日) ・Hello Kitty 展 ―わたしが変わるとキティも変わる― お問い合わせ：西日本新聞イベントサービス TEL 092-711-5491 (平日9:30～17:30)		9月13日(土)～9月28日(日) ・FaN Week特別展示 コレクターズ展
6月12日(木)～ ・コレクションハイライト (近現代美術室A)		
6月12日(木)～8月31日(日) ・懐かしの風景～ニッポンの夏～ (近現代美術室A)		9月2日(火)～12月21日(日) ・「北」へのまなざし (近現代美術室A)
6月12日(木)～8月31日(日) ・飛躍のためのドローイング (近現代美術室B)		9月2日(火)～11月3日(月・祝) ・菊畑茂久馬展 (近現代美術室B)
6月12日(木)～ ・コレクションハイライト (近現代美術室C)		
6月25日(水)～8月24日(日) ・夏休みこども美術館2025 みる見る きこえる 音楽会 (古美術企画展示室)		8月26日(火)～10月19日(日) ・仙厓展 (古美術企画展示室)
6月3日(火)～8月17日(日) ・松永耳庵 夏の茶事 (松永記念館室)		8月19日(火)～10月26日(日) ・秋の名品展 (松永記念館室)
通期・東光院のみほとけ (東光院仏教美術室)		

特別展(2階)

「コレクション」展 近現代美術(2階)

「コレクション」展 古美術(1階)

LECTURE

つきなみ講座

JULY-SEPTEMBER 2025

毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、
関心ごとについて語ります。

※聴講無料、申し込み不要 ※先着順(30分前開場) ※定員等は変更になることがあります。
詳細は美術館ホームページをご確認ください。

8月

「みんな」って誰？
ー対象から考える美術館の教育活動の変遷

多くの美術館のミッションにうたわれる「みんな」や「すべての人々」とは誰なのでしょう？
当館教育プログラムの対象者の変遷を辿りながら、「みんな」とは誰かについて、また美術館の教育活動についても考えます。

日時：8月23日(土)15:00～16:00
会場：レクチャールーム(定員54名)
講師：崎田明香(学芸員・教育普及係)



「初めてのベビーカーツアー」の様子

※展覧会およびイベントに変更が生じる場合があります。来館前にホームページで最新情報をご確認ください。

7月

松永耳庵 遺愛の茶道具

戦前戦後の電力業界で多大な功績を残し、屈指の数寄者茶人としても名を馳せた松永安左工門(号:耳庵)。松永翁が特に愛用した茶道具に注目し、茶人、美術蒐集家としての翁の魅力に迫ります。

日時：7月19日(土)15:00～16:00
会場：レクチャールーム(定員54名)
講師：後藤恒(学芸課長)



松永耳庵(1875-1971)

9月

美術と言語と人工知能

美術はイメージによる世界表現ですが、かといって言語と無関係ではありません。ちょっと哲学的でこむずかしいテーマですが、両者の関係に人工知能も交えた三角関係について考えてみたいと思います。

日時：9月20日(土)14:30～16:00
会場：ミュージアムホール(定員180名)
講師：中山喜一郎(総館長)



画像生成AIによる福岡市美術館のイメージ

ギャラリー A-F 2階

7月8日(火)～7月13日(日)
・ いままでとこれからの藍と絞り 仁田みかこ展 (ギャラリーA)
・ 阿部直昭 絵画教室 彩友会 (ギャラリーB,C,D)
・ Beyond Blue 青の彼方へ (ギャラリーE)
・ 下尾幸生陶展 (ギャラリーF)

7月15日(火)～7月21日(月・祝)
・ 令和7年度福岡県高文連福岡地区大会 (第39回美術・工芸展) (ギャラリーA,B,C,D,E,F)

7月23日(水)～7月27日(日)
・ 第23回九州二紀展 (ギャラリーA,B,C,D,E,F)

7月29日(火)～8月3日(日)
・ 知覧を書く 戦後80年 平和を考える(傘寿作) (ギャラリーA)
・ Monochrome & Colorfull 展 (ギャラリーE)
・ 日本空間デザイン賞・日本サインデザイン賞受賞作品展2024 (ギャラリーF)

8月5日(火)～8月11日(月・祝)
・ 第56回正筆会青華書作展全国巡回展(九州展) 第3回福岡地区正筆会展 (ギャラリーA,B,C,D)
・ 河塚 敦 絵画作品展 (ギャラリーE)
・ 福岡教育大学 書道専攻OBOG28生展 (ギャラリーF)

8月13日(水)～8月17日(日)
・ 西日本新聞書道之友展2025(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

8月19日(火)～8月24日(日)
・ 紫彩展 (ギャラリーA)
・ CHIKAPPART イラストから立体まで (ギャラリーB,C,D)
・ 会話的鑑賞と蝕図 (ギャラリーE)
・ 宮崎恵子写真展「一期一会」 (ギャラリーF)

8月26日(火)～8月31日(日)
・ 第1回NPO法人国際書画印研究会芸術展 (ギャラリーA)
・ よかも (ギャラリーB,C,D)
・ グループ テオ展 (ギャラリーE)
・ 第2回書道研究筆聖書書作展 (ギャラリーF)

9月2日(火)～9月7日(日)
・ 第十八回旧帝国大学合同書道展 (ギャラリーA,B,C,D,E,F)

9月9日(火)～9月15日(月・祝)
・ Triangle II (ギャラリーA)
・ 第40回「日本の海洋画展」 (ギャラリーB,C,D)
・ すぎもり えいとく展 (ギャラリーE)
・ soy FIELD 絵画教室 作品展 (ギャラリーF)

9月17日(水)～9月21日(日)
・ 3人のアウトドアアート(ギャラリーA)
・ テキスタイル&ファイバーアートグループgrasp 第24回展 (ギャラリーB,C,D)
・ 「写楽会きまレッスン」 (ギャラリーE)
・ 第11回野口正幸絵画教室生徒作品展 (ギャラリーF)

9月23日(火・祝)～9月28日(日)
・ 加藤隆之 個展 (ギャラリーB,C,D)
・ 青像グループ展 (ギャラリーE)
・ 福岡読売写真クラブ 第16回写真展 (ギャラリーF)

9月30日(火)～10月5日(日)
・ Kinji. が爆発 3 (ギャラリーA)
・ 景柳書道学会作品展 (ギャラリーB,C,D)
・ ミクスドメディアのなかまたち展 (ギャラリーE)
・ リベラル展 (ギャラリーF)



グランドメゾン別府レジデンス



グランドメゾン大濠公園ザ・タワー



グランドメゾン大濠公園ザ・クラス



グランドメゾン百道1丁目

時を経るほどに美しく、積水ハウスの分譲マンショングランドメゾン



積水ハウス株式会社

お問い合わせ 0120-143-377

グランドメゾン 検索



福岡市美術館ミュージアムイベント協力企業・団体



ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」（ふるさと納税による寄付）を募集しています。

わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクに!もっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。福岡市文化芸術振興財団のホームページ (<http://www.ffac.or.jp/wa/>) またはミュージアムショップ店頭で入会受付中。

MUSEUM SHOP

ミュージアムショップ



仙厓エコバッグ
《指月布袋図》
2,000円(税込)

使わないときはコンパクトに折り畳み持ち運べるので便利です。

本体サイズ:
縦約35cm×横約50cm(ハンドル含めず)



福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館
ウェブサイト

www.fukuoka-art-museum.jp



esplanade JULY 2025 | NO.220

福岡市美術館 季刊誌エスプラナード220号 発行日:2025年7月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社(西日本新聞社)【編集】浅野佳子(nico edit)【デザイン】dictom design【印刷】株式会社西日本新聞プロダクツ【発行】福岡市美術館(〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 TEL:092-714-6051 FAX:092-714-6071 <https://www.fukuoka-art-museum.jp>)

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 TEL:092-714-6051(代表) FAX:092-714-6071
【開館時間】9:30~17:30(7月~10月の金・土曜日は9:30~20:00) ※入館は閉館の30分前まで。
【休館日】月曜日、年末年始(12月28日~1月4日) ※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日)